



HXストレージクラスタのモニタリング

- HyperFlex クラスタのモニタリング (1 ページ)
- HX Connect を使用した HyperFlex クラスタのモニタリング (1 ページ)
- HX Connect を使用した監査ロギング (16 ページ)

HyperFlex クラスタのモニタリング

この章では、HXストレージクラスタ次のインターフェイスを通じて利用できるモニタリングの内容について説明します。

- Cisco HX 接続
- Cisco HX データ プラットフォーム プラグイン
- ストレージ コントローラ VM コマンド ライン

HX Connect を使用した HyperFlex クラスタのモニタリング

HX接続ユーザーインターフェイスは、HXストレージクラスタのステータス、コンポーネント、および暗号化やレプリケーションなどの機能のビューを提供します。

主要なモニタリングページには、ローカルのCisco HXストレージクラスタに関する情報が含まれています。

- **[ダッシュボード (Dashboard)]** : Cisco HXストレージクラスタステータスの概要です。
- **アラーム、イベント、アクティビティ** : 詳細については、『Cisco HyperFlex システム トラブルシューティング リファレンス ガイド』を参照してください。
- **[パフォーマンス (Performance)]** : IOPS、スループット、遅延、およびレプリケーション ネットワーク帯域幅のグラフ。
- **[システム情報 (System Information)]** : ノードとディスクのデータを含めたHXストレージクラスタシステムに関する情報を表示し、HXメンテナンスモードへのアクセスを提供します。

『Cisco HyperFlex システム トラブルシューティング リファレンス ガイド』には、バンドルの生成方法、ストレージクラスタメンテナンス操作の概要メンテナンスモードの開始と終了方法、およびビーコンの設定ノードまたはディスクビーコンを設定する方法について記されています。

- ・[データストア (Datastores)] : データストアのステータスと関連タスク。
- ・[仮想マシン (Virtual Machines)] : 仮想マシンのステータスと仮想マシン保護に関連するタスク

さらに、次の Cisco HX 接続 ページから管理機能にアクセスできます。

- ・[暗号化 (Encryption)] : ディスクおよびノードに保存されるデータの暗号化タスク。
- ・[レプリケーション (Replication)] : ディザスター リカバリでの VM 保護タスク。

[アップグレード (Upgrade)] ページでは、HX データ プラットフォームと Cisco UCS Manager のファームウェア アップグレードタスクにアクセスできます。

[ダッシュボード (Dashboard)] ページ



重要 読み取り専用ユーザの場合は、ヘルプに記載されているすべてのオプションが表示されないことがあります。HyperFlex (HX) Connect では、ほとんどのアクションの実行に管理者権限が必要です。

HXストレージクラスタのステータスの概要が表示されます。これは、Cisco HyperFlex Connect にログインすると最初に表示されるページです。

UI要素	基本的な情報
[動作ステータス (Operational Status)] セクション	<p>HXストレージクラスタの機能ステータスとアプリケーションパフォーマンスが表示されます。</p> <p>[情報 (Information)] () をクリックして、HXストレージクラスタ名とステータスデータにアクセスします。</p>

UI要素	基本的な情報
[クラスター ライセンスの状態 (Cluster License Status)] セクション	<p>HXストレージクラスタに初めてログインしたとき、またはHXストレージクラスタライセンスが登録されるまでに、次のリンクが表示されます。</p> <p>クラスター ライセンスが登録されていないリンク : HXストレージクラスタが登録されていない場合に表示されます。クラスター ライセンスを登録するには、このリンクをクリックし、[スマート ソフトウェア ライセンス 製品登録 (Smart Software Licensing Product Registration)] 画面で製品インスタンス登録トークンを指定します。製品インスタンス登録トークンを取得する方法の詳細については、『Cisco HyperFlex システムインストールガイド』の「スマートライセンスへのクラスターの登録」セクションを参照してください。</p>
[復元力ヘルス (Resiliency Health)] セクション	<p>HXストレージクラスタのデータヘルスステータスと耐障害性が表示されます。</p> <p>[情報 (Information)] () をクリックして復元力ステータスと、レプリケーションおよび障害データにアクセスします。</p>
[容量 (Capacity)] セクション	<p>ストレージ合計の内訳と使用中または未使用のストレージ容量が表示されます。</p> <p>また、ストレージの最適化、圧縮による節約、およびクラスタに格納されているデータに基づく重複排除比率も表示されます。</p>
[ノード (Nodes)] セクション	<p>HXストレージクラスタにおけるノード数とコンバージドノード対コンピューティングノードの区分が表示されます。ノードアイコンの上にカーソルを合わせると、ノードの名前、IPアドレス、ノードタイプが表示されます。また、容量、使用率、シリアル番号、およびディスクタイプデータにアクセスできるディスクがインタラクティブに表示されます。</p>
[パフォーマンス (Performance)] セクション	<p>設定可能な時間の HXストレージクラスタのパフォーマンススナップショットが表示され、IOPS、スループット、および遅延データが示されます。</p> <p>詳細については、[パフォーマンス (Performance)] ページを参照してください。</p>
[クラスタ時間 (Cluster Time)] フィールド	クラスタのシステム日時。

テーブルヘッダーの共通フィールド

HX Connect内のいくつかのテーブルには、テーブルに表示される内容を左右する次の3つのフィールドのどれかが表示されます。

UI要素	基本的な情報
[更新 (Refresh)] フィールドとアイコン	<p>HXクラスタの動的更新では、テーブルが自動的に更新されます。タイムスタンプは、テーブルが最後に更新された時刻を示します。</p> <p>コンテンツを今すぐ更新するには、円形アイコンをクリックします。</p>
[フィルタ (Filter)] フィールド	<p>入力したフィルタテキストと一致するリスト項目のみがテーブルに表示されます。以下の表の現在のページに一覧表示されている項目は自動的にフィルタ処理されます。入れ子になつたテーブルはフィルタ処理されません。</p> <p>[フィルタ (Filter)] フィールドに選択テキストを入力します。</p> <p>[フィルタ (Filter)] フィールドを空にするには、[x]をクリックします。</p> <p>テーブル内の他のページからコンテンツをエクスポートするには、下部までスクロールし、ページ番号をクリックしてフィルタを適用します。</p>
[エクスポート (Export)] メニュー	<p>テーブルデータの現在のページのコピーを保存します。テーブルコンテンツは、選択したファイルの種類でローカルマシンにダウンロードされます。リストの項目をフィルタ処理すると、フィルタ処理されたサブセットリストがエクスポートされます。</p> <p>エクスポートファイルの種類を選択するには、下向き矢印をクリックします。ファイルの種類のオプションは、cvs、xls、およびdocです。</p> <p>テーブル内の他のページからコンテンツをエクスポートするには、下部までスクロールし、ページ番号をクリックしてエクスポートを適用します。</p>

[Activity (アクティビティ)] ページ

HXストレージクラスタ上の最近のアクティビティのリストを表示します。これにより、VMの動作、クラスタのアップグレード/拡張、メンテナンスモードの開始/終了、およびリカバリジョブの進捗状況をモニタできます。

UI要素	基本的な情報
[アクティビティ (Activity)] リスト	<p>最近のタスクのリストと、次の詳細が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ID • 説明 • VM 電源のオン/オフ/一時停止ステータス • タスクのステータス： <ul style="list-style-type: none"> • 進行中 • 成功 • 失敗 VM 電源の操作に失敗した場合は、[既存の状態 (Existing State)] フィールドと [必要な状態 (Required State)] フィールドも表示されます。 • 日時スタンプ • Progress bar <p>展開されたリストには、タスクの手順名とステータスが表示されます。</p> <p>コンテンツを今すぐ更新し、最近のアクティビティを取得するには、円形のアイコンをクリックします。ページは2分ごとに自動的に更新されます。</p>

UI要素	基本的な情報
[リカバリ (Recovery)] リスト	<p>次の詳細を含む、リカバリ関連のすべてのジョブ(移行、リカバリ、テストリカバリ、再保護など)の進行状況を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ID • 説明 • タスクのステータス : <ul style="list-style-type: none"> • 進行中 • 成功 • 失敗 • 日時スタンプ • 進捗バー <p>展開されたリストには、タスクの手順名とステータスが表示されます。</p> <p>コンテンツを今すぐ更新し、最近のアクティビティを取得するには、円形のアイコンをクリックします。ページは2分ごとに自動的に更新されます。</p>
[すべて展開/すべて折り畳む (Expand All/Collapse All)] ボタン	<p>ジョブリストのビューを切り替えて、最上位のタスク情報またはタスク詳細を表示します。</p> <p>個別のタスクを展開したり折りたたんだりすることもできます。</p>

次の表に、[アクティビティ (Activity)] ページで HX タスクを作成するスナップショット操作を示します。

表 1: アクティビティ ページで HX タスクを作成するスナップショット操作

Operation	アクティビティ ページでの HX タスクの作成
HX プラグインからの Ready Clone	HX タスクが作成されていません。
HX ConnectからのReady Clone	HX タスクが [アクティビティ (Activity)] ページに追加されました。
HX プラグインからのスケジュールされたスナップショットタスクの作成	HX タスクが作成されていません。
HX Connectからのスケジュールされたスナップショットタスクの作成	HX タスクが [アクティビティ (Activity)] ページに追加されました。

スケジュールスナップショットからのスナップショットの作成	HXタスクが[アクティビティ (Activity)]ページに追加されました。
HXプラグインからのスナップショット	HXタスクが作成されていません。
HX Connectからのスナップショット	HXタスクが[アクティビティ (Activity)]ページに追加されました。

[システム情報 (System Information)]概要ページ

ノードとディスクを含め、HXストレージクラスタのシステム関連の情報が表示されます。また、ここからHXメンテナンスモードにアクセスできます。

HXストレージクラスタ構成データ (HX Storage Cluster Configuration Data)

このHXストレージクラスタの基本構成情報が表示されます。

UI要素	基本的な情報
[HXストレージクラスタ (HX storage cluster)] フィールド	ストレージクラスタの名前。
[Cluster License Status (クラスター ライセンスの状態)] セクション	<p>HXストレージクラスタに初めてログインしたとき、またはHXストレージクラスタライセンスが登録されるまでに、[今すぐ登録 (Register Now)] リンクが表示されます。</p> <p>[今すぐ登録 (Register Now)] リンク：クラスタライセンスを登録するには、このリンクをクリックし、[Smart Software Licensing Product Registration (スマートソフトウェアライセンス製品登録)] 画面で製品インスタンス登録トークンを指定します。製品インスタンス登録トークンを取得する方法の詳細については、『VMware ESXi の Cisco HyperFlex システムインストールガイド』の「スマートライセンスへのクラスタの登録」セクションを参照してください。</p> <p>(注) クラスタライセンスを登録するには、[アクション (Actions)] ドロップダウンフィールドから[クラスタの登録 (Register Cluster)] を選択することもできます。</p>

UI要素	基本的な情報
[ライセンスの使用状況 (License Usage)] セクション	<ul style="list-style-type: none"> ライセンス タイプ : 評価、Edge、標準、またはエンタープライズを HXストレージクラスタライセンス タイプとして表示します。 ライセンス ステータス : HXストレージクラスタライセンス ステータスとして次のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス ライセンスの期限が <n> 日後に切れます。クラスタが登録されていません - 今すぐ登録します。 (このステータスは評価タイプライセンスの場合にのみ表示されます。 ライセンスの期限が切れています。クラスタが登録されていません - 今すぐ登録します。 (このステータスは評価タイプライセンスの場合にのみ表示されます。 コンプライアンス違反 - ライセンスが不十分です 認証の有効期限切れ : HX が Cisco Smart Software Manager および Smart Software Manager サテライトと 90 日以上通信できない場合、このステータスが表示されます。 <p>(注) ライセンス証明書を更新するか、ライセンス認証を更新するには、[アクション (Actions)] ドロップダウン フィールドからそれぞれのオプションを選択します。</p>
[HXストレージクラスタステータス (HX storage cluster status)] フィールド	HXストレージクラスタの機能ステータスが示されます。 <ul style="list-style-type: none"> [オンライン (Online)] : クラスタは利用可能です。 [オフライン (Offline)] : クラスタは使用可能ではありません。 [読み取り専用 (Read Only)] : クラスタは領域外です。 [不明 (Unknown)] : クラスタがオンラインになるまでの遷移状態。
[vCenter] リンク	この HXストレージクラスタに関連付けられている VMware vSphere のセキュア URL。このリンクをクリックしてリモートから vSphere Web クライアントにアクセスします。

UI要素	基本的な情報
[ハイパーバイザ (Hypervisor)] フィールド	この HXストレージクラスタにインストールされているハイパーバイザのバージョン。
[HXDPバージョン (HXDP Version)] フィールド	この HXストレージクラスタにインストールされているインストーラパッケージのバージョン。
[データレプリケーションファクタ (Data Replication Factor)] フィールド	この HXストレージクラスタに保存されている冗長データレプリカの数。
[稼働時間 (Uptime)] フィールド	この HXストレージクラスタがオンラインであった期間。
[合計キャパシティ (Total Capacity)] フィールド	このクラスタ全体のストレージサイズ。
[使用可能な容量 (Available Capacity)] フィールド	このクラスタの空きストレージの容量。
[DNSサーバ (DNS Server(s))]	この HXストレージクラスタの DNSサーバの IPアドレス。
NTPサーバ	この HXストレージクラスタの NTPサーバの IPアドレス。

コントローラ VM アクセス

アクションを使用して、管理者としてSSHを使用してコントローラVMにアクセスし、SSHを介したコントローラアクセスの有効化、SSHを介したコントローラアクセスの無効化、またはライセンスの登録などのアクションを実行します。



(注)

SSHを有効または無効にするアクションは、ローカルユーザーではなく、ドメインユーザーのみが実行できます。ドメインユーザーは、VC (ESXi) およびAD (Hyper-v) のユーザーです。

UI要素	基本的な情報
SSHを介したコントローラのアクセスを無効化	セキュアシェル (SSH) は、デフォルトでは無効にされています。
ライセンスを登録	ライセンスを登録します。
vCenterの再登録	vCenter経由でライセンスを再登録

ディスク ビューのオプション

ディスク ビューの表示をカスタマイズします。[ノードデータ (Node Data)] セクションに表示されるフィールドを選択および選択解除するには、チェックボックスリストを使用します。

ディスク ビューの凡例

ディスクの凡例アイコンと説明を表示するには、[ディスク表示の凡例] をクリックします。

ノード データ (Node Data)

このHXストレージクラスタ内の各ノードに関するデータが表示されます。この情報を表形式で表示するには、[ノード (Nodes)] ページに移動します。

UI 要素	基本的な情報
Node	このクラスタ上のノードの名前です。
モデル (Model)	このノードの物理ハードウェアのモデル番号です。
ディスク	このノードの永続的なディスクに対するキャッシュディスクの数です。
ノードステータス	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン ・オフライン ・メンテナンス中 ・Healthy ・警告
HXDP バージョン	このクラスタにインストールされている HyperFlex データ プラットフォームのバージョン。
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーコンバージド ・コンピューティング
ハイパーバイザステータス	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン ・オフライン ・メンテナンス中 ・進行中
ハイパーバイザアドレス	この HXストレージクラスタの管理ネットワークで使用する IPアドレスです。
ディスクの概要	<p>各ノードで使用中のディスクの数、使用タイプ、および空のスロットの数のグラフィック表示。</p> <p>(注) 赤色のアイコンが付いたディスクアウトラインは、認識されず、カタログのアップグレードが必要なディスクを示します。</p>

ディスクがあるノードでは、ディスクの上にカーソルを置くと、次のような情報がインタラクティブに表示されます。

ディスク

UI要素	基本的な情報
スロット番号	ドライブの場所(たとえば、スロット番号 2)。
ディスクのタイプ	<ul style="list-style-type: none"> システム (System) Cache 永続
ディスクの状態	<ul style="list-style-type: none"> 請求済み 応対可 無視 ブラックリスト OK して削除 不明
ロケータ LED	ディスクを特定しやすくするためにホスト上の物理的なライトをアクティブにします。オプションは、[オン (On)] と [オフ (Off)] です。
容量	ディスク サイズの合計です。
[使用済み/総容量 (Used / Total Capacity)](永続ディスクのみ)	合計ディスク サイズに対する使用されているディスクの容量です。
シリアル番号 (Serial Number)	このディスクの物理シリアル番号です。
[ストレージ使用率 (Storage Usage)](永続ディスクのみ)	使用されているディスク ストレージの割合です。
バージョン	ディスク ドライブのバージョン。
ディスク ドライブ インターフェイス	ディスク ドライブのインターフェイスタイプ(たとえば、SAS または SATA)。

[ノード (Nodes)] ページ

表にこのHXのストレージクラスタ内のすべてのノードに関するデータが表示されます。それぞれの列 (カラム) を基準にデータをソートできます。

UI要素	基本的な情報
[HXメンテナンスモードの開始 (Enter HX Maintenance Mode)] ボタン	このボタンにアクセスするノードを選択します。 [HXメンテナンスモードの確認 (Confirm Maintenance Mode)] ダイアログボックスが開きます。
[HXメンテナンスモードの終了 (Exit HX Maintenance Mode)] ボタン	このボタンにアクセスするノードを選択します。 すべてのメンテナンスタスクを完了した後、手動で HX メンテナンスモードを終了する必要があります。
[ノード (Node)] カラム	この HXストレージクラスタ内のノードの名前。
[ハイパーバイザ (Hypervisor)] カラム	[ノード (Node)] 列で参照されるノードの管理ネットワークの IP アドレス。
[Hypervisor Status] カラム	<ul style="list-style-type: none"> • [オンライン (Online)] : ノードは使用できます。 • [オフライン (Offline)] : ノードは使用できません。 • メンテナンス中 : 実行中 (および電源がオフ) になっているノードは、ホストから切断されています。 • [進行中 (In Progress)] : バックアップジョブが進行中です。
[Controller Address] カラム	[ノード (Node)] 列で参照されるノードの HXストレージ コントローラ VM の IP アドレス。
[Controller Status] カラム	<ul style="list-style-type: none"> • [オンライン (Online)] : VM とディスクの間の接続を使用できます。 • [オフライン (Offline)] : VM とディスク間の接続は使用できません。 • [メンテナンス中 (In Maintenance)] : VM とディスクの間の接続はホストから電源がオフになります。
[モデル (Model)] カラム	このノードの物理ハードウェアのモデル番号。
[バージョン (Version)] カラム	HyperFlex データ プラットフォーム このノードにインストールされているインストーラ パッケージのバージョン。
[ディスク (Disks)] カラム	ノード内のディスクの数。 数値をクリックすると、選択されたノード名でフィルタリングされた [ディスク (Disks)] ページが開きます。

[ディスク (Disks)] ページ

7列のテーブルに、この HXストレージクラスタ内のすべてのディスクに関するデータが表示されます。それぞれの列 (カラム) を基準にデータをソートできます。

UI要素	基本的な情報
[ノード (Node)] カラム	ディスクが存在するノードの名前。
[スロット (Slot)] カラム	SED ドライブの場所。これは、メンテナンス作業のためにドライブを識別します。
[Capacity] カラム	ディスクの合計サイズ。

UI要素	基本的な情報
[Status] カラム	<p>次の状態は無視しても構いません。</p> <ul style="list-style-type: none">無効 (Invalid)標準[削除済み (Removed)] : [安全に消去する (Secure Erase)] オプションを使用した後に SED ディスクが削除されるときの状態です。タイムアウト不明

UI要素	基本的な情報
	<ul style="list-style-type: none"> • [Claimed] : ディスクが認識され、使用中の状態です。 • [利用可能 (Available)] : 新しく追加された、保管中データ対応のディスクの初期状態です。また、ディスクが他のいずれかの状態に移るときの遷移状態でもあります。 • [Ignored] : ディスクがクラスタによって使用されていない状態です。たとえば、HX コントローラ VM システムディスク、他のデータ（有効なファイルシステムパーティション）を含むディスク、またはI/Oの障害が発生しているディスクです。 • [ブラックリスト登録済み (Blacklisted)] : ソフトウェアのエラーまたはI/Oエラーが原因でディスクがクラスタによって使用されていないときの状態です。これは、まだ利用可能なディスクをクラスタが修復しようとしたときに [修復 (Repairing)] 状態に移行する前の遷移状態である可能性があります。 • [削除OK (Ok To Remove)] : これは、[安全に消去する (Secure Erase)] オプションを使って SED ディスクがすでに安全に消去されており、安全に削除できる状態です。 • [修復 (Repairing)] : ブラックリスト登録済みディスクが現在修復されている状態です。 • [削除対象 (To Be Removed)] : ディスクが RMA にスケジュールされているとき

■ HX Connect を使用した監査ロギング

UI要素	基本的な情報
	の状態です。
[暗号化 (Encrypted)] カラム	<ul style="list-style-type: none"> [有効 (Enabled)] : この保管中データ対応ディスクの暗号化が設定されています。 [無効 (Disabled)] : この保管中データ対応ディスクの暗号化は設定されていません。この状態は、新しいディスクが存在するものの、キーがまだ適用されていない場合に発生します。 ロック済み 不明
[タイプ (Type)] カラム	<ul style="list-style-type: none"> 不明 [循環 (Rotational)] : ハイブリッド ドライブ [ソリッドステート (Solid State)] : SSD ドライブ
使用状況 (Usage) カラム	<ul style="list-style-type: none"> 不明 Cache 永久的 (Persistent)
[ロケータをオンにする (Turn On Locator LED)] および [ロケータ LED をオフにする (Turn Off Locator LED)] オプションボタン	ディスクを 1 つ選択してオプションボタンにアクセスします。 ディスクを探すために役立つホスト上の物理光またはビーコンをアクティベートまたは非アクティベートします。
(任意) [安全に消去する (Secure erase)] ボタン	<p>このボタンは、HXストレージクラスタがローカルキー暗号を使って暗号化されている場合にのみ表示されます。</p> <p>ディスクを 1 つ選択してこのボタンにアクセスします。</p> <p>クラスタで使用中の暗号キーを入力し、[安全に消去する (Secure Erase)] をクリックしてから、[はい、このディスクを消去します (Yes, erase this disk)] をクリックしてローカル暗号キーを安全に消去します。</p>

HX Connect を使用した監査ロギング

監査ロギングは、すべての監査ログをリモートsyslogサーバに保存することを意味します。現在、各コントローラVMは監査ログを保存していますが、これらのログは無期限に保存される

わけではありません。ログは、コントローラVMに設定されている保持ポリシーに基づいて上書きされます。監査ログを保存するようにリモートsyslogサーバを設定することにより、ログが長期間保持できます。

次に、リモートsyslogサーバにエクスポートできる監査ログを示します。

- REST関連のログ

- /var/log/springpath/audit-rest.log
- /var/log/springpath/hxmanager.log
- /var/log/springpath/hx_device_connector.log
- /var/log/shell.log
- /var/log/springpath/stSSOMgr.log
- /var/log/springpath/stcli.log
- /var/log/springpath/hxcli.log

- /var/log/nginx/ssl-access.log

監査ロギングを有効にすると、これらのログはリモートsyslogサーバにエクスポートされます。コントローラVMからのログがリモートsyslogサーバにプッシュされていない場合、またはリモートsyslogサーバに到達できない場合は、HX接続ユーザーインターフェイスでアラームが生成されます。ただし、HX接続はリモートsyslogサーバで使用可能なディスク領域をモニタしません。リモートsyslogサーバのディスクが満杯の場合、HX接続ユーザーインターフェイスでアラームが表示されません。



注目

- 監査ロギングを有効にできるのは、管理者ユーザーのみです。

- コンピューティング専用ノードと監視ノードからのログは、リモートsyslogサーバにプッシュされません。

監査ロギングを有効にした後、監査ロギングを一時的に無効にするか、または監査ロギングサーバ設定の詳細を削除するかを選択できます。

監査ロギングの有効化

始める前に

- リモートsyslogサーバを設定します。HX Connectで監査ロギングを有効にするには、サーバIP、ポート番号、証明書ファイルなどのサーバの詳細を設定する必要があります。
- コントローラVMとリモートsyslogサーバとの間に暗号化された接続を設定するには、コントローラVMでsyslogクライアントの自己署名証明書またはCA署名付き証明書と秘密キーを生成する必要があります。

■ 監査ロギングの有効化

- さまざまなタイプのログをそれぞれのファイルに分類するようにリモート syslog サーバを設定します。

ステップ1 [Settings (設定)] > [Audit Log Export Settings (監査ログ エクスポート設定)] を選択します。

ステップ2 [Enable audit log export to an external syslog server (監査ログ エクスポートを外部 syslog サーバに有効にする)] チェック ボックスをチェックします。

ステップ3 次の詳細を入力します。

UI 要素	基本的な情報
Syslog サーバ	Syslog サーバの IP アドレスを入力します。
Port	syslog サーバのポート番号を入力します。
[接続タイプ(Connection Type)] ドロップダウンリスト	接続タイプとして [TLS] または [TCP] を選択します。デフォルト値と推奨値は TLS です。TLS 接続タイプは、TLS を介した暗号化されている転送用です。TCP 接続タイプは、TCP を介した暗号化されていない転送用です。
クライアント証明書	[Choose (選択)] をクリックして、コントローラ VM に保存する必要がある証明書ファイルを検索します。この証明書により、コントローラ VM とリモート syslog サーバの間に TLS 接続を作成します。TLS 接続によって、ログファイルが確実に暗号化されます。 ユーザーが生成した自己署名証明書または CA 署名付き証明書のいずれかをアップロードする必要があります。
秘密キー (Private Key)	[Choose (選択)] をクリックして、コントローラ VM に保存する必要がある生成されたプライベートキー ファイルを検索します。このキーにより、コントローラ VM とリモート syslog サーバの間に TLS 接続を作成します。 Syslog サーバの証明書と秘密キーを選択すると、ログファイルが確実に暗号化されます。Syslog サーバの証明書は、CA 証明書または自己署名証明書のいずれかにすることができます。
自己署名証明書を使用しますか?	Syslog サーバが自己署名証明書を使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。 [Choose (選択)] をクリックして、syslog サーバの自己署名証明書を検索します。

ステップ4 [OK]をクリックします。

リモートsyslogサーバの設定

監査ロギングを有効にする前に、リモートsyslogサーバに設定ファイルを作成して、異なるログファイルを別々のファイルに分類する必要があります。/Etc/syslog-*ng*/conf.dディレクトリのhx-audit.confというタイトルのファイルを作成できます。

次に、syslogサーバとの暗号化された接続を確立するための設定ファイルの例を示します。

```
## Audit Logging Configuration #####
source demo_tls_src {
    tcp(ip(0.0.0.0) port(6515)
        tls(
            key-file("/etc/syslog-ng/CA/serverkey.pem")
            cert-file("/etc/syslog-ng/CA/servercert.pem")
            peer-verify(optional-untrusted)
        )
    );
};

filter f_audit_rest { match("hx-audit-rest" value("MSGHDR")); };
filter f_device_conn { match("hx-device-connector" value("MSGHDR")); };
filter f_stssomgr { match("hx-stSSOMgr" value("MSGHDR")); };
filter f_ssl_access { match("hx-ssl-access" value("MSGHDR")); };
filter f_hxmanager { match("hx-manager" value("MSGHDR")); };
filter f_hx_shell { match("hx-shell" value("MSGHDR")); };
filter f_stcli { match("hx-stcli" value("MSGHDR")); };
filter f_hxcli { match("hx-cli" value("MSGHDR")); };

destination d_audit_rest { file("/var/log/syslog-ng/audit_rest.log"); };
destination d_device_conn { file("/var/log/syslog-ng/hx_device_connector.log"); };
destination d_stssomgr { file("/var/log/syslog-ng/stSSOMgr.log"); };
destination d_ssl_access { file("/var/log/syslog-ng/ssl_access.log"); };
destination d_hxmanager { file("/var/log/syslog-ng/hxmanager.log"); };
destination d_hx_shell { file("/var/log/syslog-ng/shell.log"); };
destination d_stcli { file("/var/log/syslog-ng/stcli.log"); };
destination d_hxcli { file("/var/log/syslog-ng/hxcli.log"); };

log { source(demo_tls_src); filter(f_audit_rest); destination(d_audit_rest);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_device_conn); destination(d_device_conn);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_stssomgr); destination(d_stssomgr); flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_ssl_access); destination(d_ssl_access);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hxmanager); destination(d_hxmanager);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hx_shell); destination(d_hx_shell); flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_stcli); destination(d_stcli); flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hxcli); destination(d_hxcli); flags(final); };

#####
次に、リモートsyslogサーバとのTCP接続を確立するための設定ファイルの例を示します。
#####
## Audit Logging Configuration #####
##
```

監査ロギングの無効化

```

source demo_tls_src {
    tcp(ip(0.0.0.0) port(6515)
); };

filter f_audit_rest { match("hx-audit-rest" value("MSGHDR")); };
filter f_device_conn { match("hx-device-connector" value("MSGHDR")); };
filter f_stssomgr { match("hx-stSSOMgr" value("MSGHDR")); };
filter f_ssl_access { match("hx-ssl-access" value("MSGHDR")); };
filter f_hxmanager { match("hx-manager" value("MSGHDR")); };
filter f_hx_shell { match("hx-shell" value("MSGHDR")); };
filter f_stcli { match("hx-stcli" value("MSGHDR")); };
filter f_hxcli { match("hx-cli" value("MSGHDR")); };

destination d_audit_rest { file("/var/log/syslog-ng/audit_rest.log"); };
destination d_device_conn { file("/var/log/syslog-ng/hx_device_connector.log"); };
destination d_stssomgr { file("/var/log/syslog-ng/stSSOMgr.log"); };
destination d_ssl_access { file("/var/log/syslog-ng/ssl_access.log"); };
destination d_hxmanager { file("/var/log/syslog-ng/hxmanager.log"); };
destination d_hx_shell { file("/var/log/syslog-ng/shell.log"); };
destination d_stcli { file("/var/log/syslog-ng/stcli.log"); };
destination d_hxcli { file("/var/log/syslog-ng/hxcli.log"); };

log { source(demo_tls_src); filter(f_audit_rest); destination(d_audit_rest);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_device_conn); destination(d_device_conn);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_stssomgr); destination(d_stssomgr); flags(final);
};
log { source(demo_tls_src); filter(f_ssl_access); destination(d_ssl_access);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hxmanager); destination(d_hxmanager);
flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hx_shell); destination(d_hx_shell); flags(final);
};
log { source(demo_tls_src); filter(f_stcli); destination(d_stcli); flags(final); };
log { source(demo_tls_src); filter(f_hxcli); destination(d_hxcli); flags(final); };

#####

```

監査ロギングの無効化

監査ロギングを一時的に無効にするようを選択できます。これにより、以前に設定したサーバIPやポートなどのリモートsyslogサーバの詳細がシステムに保持されます。後で監査ロギングを再度有効にする場合は、サーバの詳細を再度入力する必要はありません。監査ロギングを有効にするために必要なのは、証明書と秘密キー ファイルをアップロードすることだけです。

ステップ1 [Settings (設定)] > [Audit Log Export Settings (監査ログ エクスポート設定)] を選択します。

ステップ2 [外部 syslog サーバへの監査ログのエクスポートの有効化] チェック ボックスのチェックを外します。

ステップ3 [OK] をクリックします。

監査ロギングは、デフォルトでは無効になっています。

監査ロギング サーバの設定の削除

管理者として、システムからリモートsyslogサーバの設定の詳細を削除できます。これを行うと、システムはリモートsyslogサーバにサーバログをプッシュしません。監査ロギングを有効にするには、サーバの詳細を再度入力する必要があります。

ステップ1 [Settings (設定)] > [Audit Log Export Settings (監査ログ エクスポート設定)] を選択します。

ステップ2 [削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ3 [Confirm Delete (削除の確認)] ダイアログボックスで、[Delete (削除)] をクリックします。

リモートsyslogサーバの詳細がシステムから削除されます。

■ 監査ロギング サーバの設定の削除